

星野富弘

花の詩画展 in 置賜



私にできることは
小さなことでも
感謝して
できたら
大きなことだ
富

「小さな実(ぐみ)」

開催時間：10時～19時30分(入館は19時まで) ※最終日：21日(月)15時まで

会場：ナセBA(よねざわ市民ギャラリー)

入場料：500円(中学生以下は無料)

主催：「星野富弘」花の詩画展 in 置賜実行委員会

後援：米沢市、米沢市教育委員会、長井市、長井市教育委員会、南陽市、南陽市教育委員会、川西町、川西町教育委員会、高畠町、高畠町教育委員会、白鷹町、白鷹町教育委員会、飯豊町、飯豊町教育委員会、小国町、小国町教育委員会、山形新聞、山形放送、米沢商工会議所、米澤新聞社、(株)置賜日報社、NCV、トータル・カウンセリング・スクール、米沢英語学院、富弘美術館

チケット取り扱い：大沼デパート米沢店、米沢駅観光案内所ASK、ナセBA(よねざわ市民ギャラリー)

2018年

5/12^土 ~ 21^月

10日間

お問い合わせ先

「星野富弘」花の詩画展 in 置賜実行委員会 事務局(米沢興譲教会内 高木・吉田)

〒992-0045山形県米沢市中央3-5-12 TEL0238-23-6439 FAX0238-23-6440



やさしさと愛に満ちた星野富弘さんの詩画展が置賜で開催されます



星野富弘

(ほしの・とみひろ) 詩画家

- 特技・趣味……………長時間動かないでいる・登山
- 好きなもの……………麺類、伝統工芸、落語、映画
- 尊敬する人……………三浦綾子

◆プロフィール

- 1946年 群馬県勢多郡東村に生まれる
- 1970年 群馬大学教育学部卒業
中学校の教諭になるがクラブ活動の指導中頸髄損傷、手足の自由を失い群大病院に入院
- 1972年 入院中、口に筆をくわえて文や絵を書き始める
- 1974年 病室でキリスト教の洗礼を受ける
- 1979年 前橋で最初の作品展
群大病院退院
- 1981年 結婚
自宅で雑誌や新聞に詩画作品や、エッセイの連載を始める
全国各地で「花の詩画展」
- 1991年 群馬県勢多郡東村に村立(現、みどり市立)富弘美術館開館
- 1994年 ニューヨークで「花の詩画展」以後ホノルル、サンフランシスコ、ロサンゼルス、ワルシャワなど海外でも開催
- 2006年 群馬県名誉県民
- 2011年 群馬大学特別栄誉賞
- 2017年 富弘美術館入館者670万人を超える

詩画や随筆は教科書にも掲載され 詩は作曲されて 多くの人に歌われている
現在も詩画や随筆の創作を続けながら、全国で「花の詩画展」を開催している

◆著書

- 「新版 愛、深き淵より。」「新編 風の旅」「風の詩」「詩画とともに生きる」…(学研)
- 「鈴の鳴る道」「かぎりなくやさしい花々」「速さのちがう時計」「あなたの手のひら」「花よりも小さく」「種蒔きもせず」「足で歩いた頃のこと」…(偕成社)
- 「山の向こうの美術館」…(富弘美術館・偕成社)
- 「銀色のあしあと」「たった一度の人生だから」「ことばの雫」
- 「いのちより大切なもの」「あの時から空がかわった」…(いのちのことば社)
- 「ポストカード」「グリーティングカード」「カレンダー」…(グローリア・アーツ)

〈会場案内〉

ナセBA よねざわ市民ギャラリー

〒992-0045 山形県米沢市中央1丁目10番6号
TEL: 0238-22-6400 FAX: 0238-26-0036
E-mail: naseba@library.yonezawa.yamagata.jp



▲茎がふくらんでいるラン



▲たんぽぽ

